定型書式による日本LCA学会誌 執筆要領

Instructions to Authors for Submission of Manuscript to

“Journal of Life Cycle Assessment, Japan”

持続太郎\* and Life, John C.\*\*

\*循環大学　環境学部

\*\*JLCA株式会社　LCA研究部門

概要（和文原稿のみ）

本論文の目的は・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

キーワード（和文原稿のみ）

持続可能な開発、ライフサイクルアセスメント、リサイクル、・・・・

Synopsis

The objective of …………………………………………………………(200words以内)

Keywords

sustainable development; life cycle assessment; recycle; …

# 1. はじめに

「日本LCA学会誌」に投稿する際は、本執筆要領に定められた原稿書式に則るものとする。本要領は定型書式（テンプレート）を兼ねているので、原則として本ファイルを用いて原稿を作成すること。

# 2. 原稿の長さ

原稿は、投稿規程に定められた刷上り頁制限を厳守する（刷上り1頁は2392文字、英文約1000語。ただし、タイトル頁は1768文字。）。

# 3. 原稿書式

# 3.1　原稿の形式

原稿は、本テンプレートにしたがって、縦置きA4版用紙に横書きする。各頁の下余白中央に頁番号、左余白に行番号を通しで記入すること。和文の場合は横40文字×縦30行とし、英文の場合はダブルスペースで記載する。

原稿は、概要／Synopsis、キーワード／Keywords、本文、謝辞（必要な場合）、参照文献、付録／Appendix（必要な場合）、Caption List、図・表／Figures・Tablesからなり、この順に記載される。ただし、「諸報」と「その他」に属するものは、概要／Synopsisとキーワード／Keywordsはなくても良い。「ノート」はキーワード／Keywordsを省く。

必要に応じて、原稿とは別にSupporting Informationも添付して、オンライン公開できる。

原稿のタイトル、著者名、所属は、本テンプレートに依らず、論文投稿システムに記入されたものから編集委員会が起こす。

# 3.2　概要／Synopsis

概要／Synopsisは、本文を参照せずに内容を的確に把握できるように書かれていなければならない。

和文原稿の場合、日本語と英語が必要であり、日本語と英語の内容は同一とする。英文原稿については、英語のみとする。英語のSynopsisは200words以内とし、日本語の概要は英語のSynopsisに対応する長さとする。

# 3.3　キーワード／Keywords

キーワードは、記事内容を表す重要な語を5つ以内で選び、日本語は読点で区切り、英語はセミコロンで区切る。日本語と英語のキーワードは同一とする。

# 3.4　本文

本文は以下の事項にしたがって日本語または英語で記載する。

## 3.4.1　文章

(1) 本文の形式は特に定めないが、研究論文では目的および結論を明確にする。ノートは形式にとらわれず簡潔に書く。各専門分野における常識的な事柄に関する冗長な説明や教科書的な内容の記述は避ける。

(2) 文章は簡潔で平易な口語体とし、特に英文もしくはカタカナ書きを必要とする部分以外は常用漢字および現代かなづかいを用いる。外国の固有名詞は原則として原語つづりとする。

(3) 日本語で記述する場合、文章の区切りには、句点（。）、読点（、）を用い、いずれの場合にも全角で1文字分をあてる。また新しい段落の始めは1文字分あける。英数字ならびにそれと一体化した記号は原則として半角とし、他の文字・記号などは全角を用いる。

(4) 略語は、初出の際に、省略のないものを書き出した上で用いることを原則とする。たとえば、「持続可能な開発目標（SDGs）」または「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals; SDGs）」とした後に、「SDGs」と略記することができる。

## 3.4.2　単位

単位はSI単位の使用を原則とする。

## 3.4.3　見出し

本文中の区分は、大見出し、中見出し、小見出しなどを明瞭にする。大見出しの前は1行あける。

〔例〕1.･･･、1.1･･･、1.2･･･、1.2.1･･･、1.2.2･･･など。その後の細分は、(1)、(2)、･･･のようにするが、過度の細分化は避けること。

## 3.4.4　脚注

脚注を必要とする場合は、該当する語句の右肩に上付き添字で脚注1)のように表示し、同じ頁の下段に本文と区別して記載する。

## 3.4.5　数式

数式を本文中に記す場合には、*x* = ( *a* + *b* ) / ( *c* + *d* )のように記載する。

本文から独立した数式は、

-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

脚注1)　脚注は、用語の解説や補足説明など、本文中に取り込むことができない詳細な説明をするために用いられるものであり、なるべく避けることが望ましい。

 (1)

 (2)

　 (3)

のように行を改め、文章中では、式(1)や式(2, 3)のように参照する。

なお、式(2)のように長い数式の場合、本誌が2段組であることを考慮し、可能な限り、式(3)のように途中で改行するなどの工夫をすることが望ましい。

# 3.5　謝辞

謝辞は、必要な場合に限って本文と参照文献の間に記述する。日本語または英語のどちらでも良い。

# 3.6　参照文献

文献は、本文や図・表中で参照、引用あるいは参考にしたもののみについて、それがなされた場所に記す。文献の表記は原則として当該文献の言語を用いる。表記の形式は以下の2つのいずれか1つを選択する。

形式その1）：括弧内に著者名と発表年をつけて（松野 2005）の如く示す。ただし、ウェブサイトなどのように、発表年が特定できない文献については、年の記載は省く。著者が2名の場合は（成田、生田 2005）、（Matsuno and Betz 2008）などと記し、3名以上の場合は（足立ら 2004）、（Hatayama et al. 2007）のように筆頭著者名のみ記載する。なお、同一著者が同一年に出版した複数の文献を参照する場合は、（松野、近藤 2005a）、（松野、近藤 2005b）のように、年の後にアルファベットを付記して区別する。複数の文献を同時に参照する場合には（松野 2005a, b）、（Matsuhashi and Moriguchi 1998; 足立ら 2004）のように記載する。参照文献を文中で直接特定するには、「松野（2005）によると、．．．」のように、著者名を括弧の外に出す。

参照文献の書誌情報は、本文の後に、著者名のアルファベット順に（著者が同じ場合は年代の古い順に）まとめて掲載する。読点は半角のコンマ（ , ）を用い、著者名は全員記載する。なお、文献名は文献の言語（原語）に従って表記することが望ましい。雑誌名は公称ないし慣用に従って省略してもよい。頁は最初と終わりの両方を記入する。文献の種類毎の記載例を、参照文献の項に例示するので参考にされたい。また、記載すべき事項を文献種類別に整理したものを表1に示す。

表1

形式その2）：参照箇所の肩に1, 2), 5-7)、のように通し番号を付けて示し、書誌情報は本文の後に番号順にまとめて記載する。その他は、形式その1）と同様である。雑誌1-5)、書籍6, 7)、学会講演要旨8, 9)、報告書10, 11)、ウェブサイト12)、ソフトウェア・コンピュータプログラム13)、それぞれの記載例を参照文献の項に示したので参考にされたい。

# 3.7　付録／Appendix

付録／Appendixは、必要な場合に限って、参照文献とCaption Listの間に記載する。日本語または英語のどちらでも良い。

# 3.8　Caption List

Caption Listは頁を改めて記入する。図・表のキャプションならびに図・表中の文字は、和文あるいは英文のどちらか1つを用いて記載する。

# 3.9　図・表／Figures・Tables

図(Figure)および表(Table)の使用は、内容を理解するのに必要なもののみとし、重複は避ける。他の著作物からの図・表の利用は、その出典を明記し、必要なら著作権保持者からの許可を得ておくこと。写真は図と区別することなく、図として統一する。

図・表は、本文とは別に作成し、それぞれ通し番号を付け、図表ごとに頁を変え頁右下に代表著者の姓名と図表番号とを記入する。図・表に用いる言語はCaption Listで用いた言語とする。図・表中でのキャプションの位置は、図の場合には図の下に、表の場合には表の上に記載する。

図・表の本文中での挿入位置を本文原稿右余白に記す。本文中での図・表の表記は、図・表を和文で作成した場合は和文（例：図1、表1）、英文で作成した場合は英文（例：Figure 1、Table 1）とする。

図1に、本学会誌創刊号の表紙を例として示す。

図 1

図はそのまま製版に使用できるように明瞭に作成する。写真はコントラストの明瞭なものを用いる。図の刷上り基準は横幅85mmであるため、文字の大きさ線の太さを十分考慮して作成する。縮尺に関して特別の希望がある場合はその旨を編集委員会に連絡する。

# 4.　おわりに

この要領は2004年10月26日より施行する。最新の改訂は、2018年12月5日に行われた。

# 謝辞

本執筆要領の作成にあたって、．．．に感謝する。本執筆要領の一部は研究費〇〇によった。

# 参照文献（掲載方法　その1）

足立芳寛, 松野泰也, 醍醐市朗, 瀧口博明 (2004): 環境システム工学, 東京大学出版会, 東京, 161pp.

独立行政法人産業技術総合研究所, 社団法人産業環境管理協会, JEMAI-LCA Pro, オプションデータパック, 東京, 社団法人 産業環境管理協会, (更新 2006-04-24)

Hatayama H., Yamada H., Daigo I., Matsuno Y., Adachi Y. (2007): Materials Transactions, Advance Publication , doi:10.2320/matertrans.MRA2007102,　入手先 <http://www.jstage.jst.go.jp/article/matertrans/advpub/0/0708200173/\_pdf/-char/ja/>, (参照 2007-08-21)

株式会社三菱総合研究所, 株式会社ダイヤリサーチマーテック (2005): マテリアルフロー解析を用いる革新的環境評価システムに関する戦略調査研究, 新エネルギー・産業技術総合開発機構, 1-5

Matsuhashi K., Moriguchi Y. (1998): Proc. 3rd. Int. Conf. Ecobalance, Tsukuba, 303-306

松本光崇, 濱野絢子, 田村徹也, 井口浩人 (2004): エコデザインジャパンシンポジウム2004論文集, 東京, 42

Matsuno Y., Betz M. (2000): Int. J. LCA, 5 (5), 295-305

松野泰也 (2005a): 日本LCA学会誌, 1 (1), 51-62

松野泰也 (2005b): 日本LCA学会誌, 1 (2), 149-157

宮本憲一, 佐和隆光, 植田和弘 (2002): “環境問題の社会経済システム”, 環境の経済理論, 岩波書店, 東京, 9-38

中村愼一郎, 廃棄物産業連関表, 早稲田大学 政治経済学術院 中村愼一郎研究室ホームページ, 入手先 <http://www.f.waseda.jp/nakashin/wio\_j.htm>, （参照 2007-08-14）

成田暢彦, 生田優司, 中野勝行 (2005): 日本LCA学会誌, 1(2), 96-101

社団法人環境情報科学センター (2004): 製品相互の環境負荷を比較評価するためのLCA手法調査報告書, 23

# 参照文献（掲載方法　その2）

1. Matsuno Y., Betz M. (2000): Int. J. LCA, 5 (5), 295-305
2. 松野泰也 (2005): 日本LCA学会誌, 1 (1), 51-62
3. 松野泰也 (2005): 日本LCA学会誌, 1 (2), 149-157
4. 成田暢彦, 生田優司, 中野勝行 (2005): 日本LCA学会誌, 1(2), 96-101
5. Hatayama H., Yamada H., Daigo I., Matsuno Y., Adachi Y. (2007): Materials Transactions, Advance Publication , doi:10.2320/matertrans.MRA2007102, 入手先 <http://www.jstage.jst.go.jp/article/matertrans/advpub/0/0708200173/\_pdf/-char/ja/>, (参照 2007-08-21)
6. 足立芳寛, 松野泰也, 醍醐市朗, 瀧口博明(2004): 環境システム工学, 東京大学出版会, 東京, 161pp.
7. 宮本憲一, 佐和隆光, 植田和弘 (2002): “環境問題の社会経済システム”, 環境の経済理論, 岩波書店, 東京, 9-38
8. Matsuhashi K., Moriguchi Y. (1998): Proc. 3rd. Int. Conf. Ecobalance, Tsukuba, 303-306
9. 松本光崇, 濱野絢子, 田村徹也, 井口浩人 (2004): エコデザインジャパンシンポジウム2004論文集, 東京, 42
10. 株式会社三菱総合研究所, 株式会社ダイヤリサーチマーテック (2005): マテリアルフロー解析を用いる革新的環境評価システムに関する戦略調査研究, 新エネルギー・産業技術総合開発機構, 1-5
11. 社団法人環境情報科学センター(2004): 製品相互の環境負荷を比較評価するためのLCA手法調査報告書, 23
12. 中村愼一郎, 廃棄物産業連関表, 早稲田大学 政治経済学術院 中村愼一郎研究室ホームページ, 入手先 <http://www.f.waseda.jp/nakashin/wio\_j.htm>, （参照 2007-08-14）
13. 独立行政法人産業技術総合研究所, 社団法人産業環境管理協会, JEMAI-LCA Pro, オプションデータパック, 東京, 社団法人 産業環境管理協会, (更新 2006-04-24)

# 付録／Appendix

付録／Appendixが必要な場合には、参照文献とCaption Listの間に記述する。

# Caption list

図1 日本LCA学会誌 第1号 第1巻 表紙

表1 参照文献の種類別に示した記載事項一覧



図1　日本LCA学会誌 第1号 第1巻 表紙

代表著者姓名、図表番号

表1　参照文献の種類別に示した記載事項一覧

|  |  |
| --- | --- |
| 種類 | 記載事項 |
| 雑誌 | 通常の１記事 | 著者名 (全員) (発行年): 雑誌名(略記にて可), 巻(号), 頁-頁 |
| 早期公開 | 著者名 (全員) (発行年): 雑誌名(略記にて可), Advance Publication, DOI, 入手先 <URL>, (参照日付) |
| 書籍 | 図書1冊 | 著者または編者名 (発行年): 書名, 出版者, 出版地 , 全頁数pp. |
| 図書の１章または一部 | 著者名 (発行年): “章の見出し” , 書名, 編者名, 出版者, 出版地, 頁-頁 |
| 定期刊行物でない論文集 | 著者名 (発行年): “論文名” , 書名, 編者名, 出版者, 出版地,頁-頁 |
| 学会講演要旨 | 著者名 (開催年): 学会名講演要旨集等の名称, 開催地, 頁-頁 |
| 報告書 | 著者名 (発行年): 報告書名, 発行者(著者名と同じときは省略可),頁-頁 |
| ウェブサイト | 著者名, ウェブページ\*の題名, ウェブサイト\*の名称, 入手先 <URL>, (参照日付) |
| ソフトウェア・コンピュータプログラム | 作成者名, ソフトウェア（コンピュータプログラム）名, バージョン, 出版地, 出版者（作成者と同じときは省略可）, 出版年（更新日付が記されているときは省略可）, 更新日付 |

\*ウェブサイトとウェブページは、ともにWWW上のページのことであるが、ウェブページは個々のページのことを、ウェブサイトはウェブページの集合体を指す。

代表著者姓名、図表番号